

刊夕日七月五

# 常磐毎日新聞

定価 一部金五銭 二部金十銭 郵費別  
 発行所 常磐毎日新聞社  
 印刷所 常磐毎日印刷株式会社

## 法悦の二境 (二)

真繼 雲山

師— それほど欲なことは  
 いはなが、せめてモツ十  
 年か十年生き延びたい。  
 客— どうもそれが生き  
 らねえよ、なつたその時は  
 ？  
 師— さアそこで行詰つて  
 をるんぢや、眞實、神佛  
 があるものなら、千に一  
 つ萬に一つ、このわしの  
 願ひが叶へて貰へんぢや  
 らうかといふ相談ぢや。  
 客— あるですとも！それ  
 が宗教の生命です  
 師— 大きなことをいふて  
 からは、結局また悟りと  
 か極樂とか漸に落してし  
 まうのぢやらうが—  
 客— 落す？落し漸ぢやあ  
 るまいし、私は眞實正銘  
 金輪際うごきのないところ  
 をつかんでゐるのです  
 師— さうかのう、わしに  
 は君の話が何か斯う……  
 架空の談議、空想論のや  
 うに思はれてならん。  
 客— 餘教は知らず、わが  
 佛教にあつては諦観とい  
 ひまして、もと／＼諦か  
 に観るといふ教へです。  
 般舟三昧經といふ有名な  
 お經があります。譯して  
 般舟とは佛立、三昧とは

定つたり禪定に入つて佛  
 の立ちたまふ姿を見る  
 といふ……それは經名で  
 すが、それが佛教の絶着  
 で現身に佛教が見えたら  
 モウ締めたものです。  
 師— 君は見えるかい？  
 客— まア、さうませつか  
 へさずに、それで、般舟  
 三昧は語を換へれば觀照  
 淨土といふことになりま  
 す。淨土がハツキリと觀  
 照できたら、モウそれで  
 佛教は卒業です。善導大  
 師は、その淨土をハツキ  
 リ觀照なされたといふ……  
 ……その觀照すべき順序方  
 法を示されたものが有名  
 な觀無量壽經です。大無  
 量壽經を略して大經とい  
 ふに對し、これを單に觀  
 經とも申します。  
 師— その觀經とやらには  
 全體どういふことが書い  
 てあるか。  
 客— 第一に日想觀、第二  
 に水想觀といふ風に、順

々に觀法をすゝめてゆき  
 ます。第七華座觀にいた  
 つて韋提希布人は愕然と  
 して、佛のおすがたを拜  
 して久遠劫來の煩惱のま  
 へに崩折れたと申します  
 この前後の經説が、有名  
 な身心觀文、略して佛身  
 觀といはれるもので、つ  
 まりは觀無量壽經の骨目  
 とされてゐます。有名な  
 『佛心とは大慈悲心是れ  
 なり』といふ一句も、佛  
 さまのおすがたも、この  
 佛身觀に示されてゐる言  
 葉です。ですから淨土宗  
 のお坊さんや信徒は、朝  
 晩の勤業にも法要にも必  
 ずこの佛心觀といふお經  
 を上げることになつてゐ  
 ます。



青芽生

ちらほらと白帆の影のほ  
 の見ゆる小春日和のど  
 かなる海  
 春の宵心の底にたゞなら  
 ぬ青春の血のときめくを  
 知るひとしきり  
 春雨止みて庭邊に落つ  
 る光のゆかしくあもゆ

毎度有難うございます  
 エビフライ  
 ビフテキ  
 喫茶會  
 コンパル  
 女給數名募集  
 平前新道通り  
 TEL.666

一冊の代金で  
 御希望通りな  
 五冊の雑誌が  
 自由に讀める  
 川崎巡回文庫  
 電六三〇番  
 (申込次第規則書進呈)

先づ!!! 御待ち下さい  
 本邦唯一の定評ある後藤ボデー會社製  
 作の豪華なる流線型高級遊覽バス  
 が来る十六日に入車致します。  
 楽しい御旅行、御視察、御  
 見學等各種團體 には是非此の  
 遊覽バスを御利用 下さる様御願致  
 します。  
 御申込は本日より承りたく存じます。  
 尼子タクシ  
 遊覽部  
 電六四〇番

子と春シヨールマツクダウンセール  
 値下賣出  
 一足お先に!! (他店同業者より) 奉仕させていただきます  
 絶好の... 御買時かと存じます  
 大黒屋  
 平三 電113  
 合着毛、綿メリヤスシャツ出賣  
 冬シャツと春シャツとの交換期が参りました  
 肌ざわりのとても良い洗濯のきくシャツが取揃へました  
 ガスシヤツ 四〇〇〇  
 上ガスシヤツ 五八〇〇  
 スムスシヤツ 五八〇〇  
 上スムスシヤツ 八〇〇〇  
 シヤツ 一、〇〇〇〇  
 新人の店  
 大黒屋  
 平三 電116

素的!!! 寫眞技術の最尖端  
 「切手寫眞」突如デビュー  
 使用効果百パーセント  
 1 お名刺、御手紙、履歴書、紹介状、新婚其他の御換  
 摺状に貼付  
 2 御旅行券から御便りの繪はかき貼られて興趣  
 津々  
 3 選舉運動印刷物に貼用、集金員の證明、工場内  
 外商店ウインドウの美觀を商品及印刷物に貼付  
 宣傳用  
 4 花街、カフェー其他社交方面の利用多々  
 5 その他職業的、事務的、趣味的、宣傳用として  
 利用法無限  
 ◎あなたの御持ちの寫眞を一枚拜借願ひそれで作りま  
 す、(別に手輕く實費で新しく撮影も致します)  
 作製料金は一組(八十八枚)  
 宣傳中當分 壹圓五拾錢  
 平前サクラ寫眞館

# 眞一文字に

## 結ぶ自動車道路

### 大平市と小名濱商港の握手

#### ▽財政部も調査に血眼

既報大平市の一角を築く産業及び資源部の部會は昨日午後一時より町會議事堂に開かれた結果

一、物産陳列館並に斡旋所の設置

一、平物産の創設と獎勵

一、平土産品の創設

一、平小名濱商港間に自動車専用道路の設置

一、温泉開鑿調査の件

一、屠殺場の經營

一、町營火葬場の電化

一、平町地下石炭採掘の研究

都、一ノ宮、大津、市川の八都市に於いて警備衛生の施設状態を親しく視察し十二日午後七時三十分平驛着列車で歸平すると

### 磐城丸の

#### 赤字は

#### 海洋調査

本縣水産試験場水産指導船磐城丸が昭和九年度中に收入さるべき漁獲物については二萬七千圓の豫定の所漸く二萬三千圓程度に止まつたので結局四千圓内外の赤字を見るに至つたその原因は海洋調査等の爲め實際漁獲に従事する期間の少かつた爲めである

### 都市施設の

#### 縣外視察

先づ警備部が明八日に出發

平町の市制施行調査委員のうち警備衛生部に屬する關口正一氏外六氏は明八日午前五時十五分平驛發列車で出發四泊五日間の豫定で水戸、平塚、沼津、豊橋、

### 新緑の

#### 關西へ旅

磐城中學校四年生百九十二名は齊藤、大橋、山本、中柴、下平、新谷、の六教諭引卒の下にいよいよ明八日午前五時十五分平驛發にて關西方面へ向ふが見學日程左の通りである

より坂本に至り途中勢田栗津 三井 唐崎 比良の各所を船中より眺めケールカーにて比叡登山延曆寺四名岳見學 ケールカーにて比叡山より八瀬に下り電車にて京都下車 北野天満宮 金閣寺 電車にて嵐山附近名所見學 嵐山發四條大宮下車 市内電車にて京都七條驛に至る 午後六時三十九分京都驛發車中泊△午前六時東京驛着 宮城參拜 午前九時宮城前にて一旦解散 午後二時上野驛集合 午後二時五十分上野驛發 午後七時三十七分平驛着解散

### 三橋架替

#### 六月上旬着工

平土木監督所で本年度事業として設計中であつた小川の三橋、御齋所峙の大山橋三橋の架替工事は昨六日設計書が完成したので六月上旬より三萬五千圓の工費で架替に着手すると

### 建國功勞

#### 永戸の三君に

永戸組合村出身の小沼泰治 長瀬利勝、高萩正の三君は滿洲事變に出征し滿洲國建國に盡力した功に依り此程滿洲國より建國功勞章を交附された

### 政友會の

#### 議會報告

總會を兼ねて石城政友部會にては来る十八日午後一時から聚樂館に總會を開き午後二時よりは金成上院議員、佐藤、鈴木兩代議の議會報告演說會ある筈にて本部から總務級の特派員を招くと

### 裁判所勝つ

#### 役場との棋戦

平區裁判所軍對平町役場軍

(二九)氏 三丁目一四渡邊(二三)

△死 亡

△久保町二阿子島訓子(一ツ)さん

### 東京短期(前場)

寄付	大引	高値	安値
新東 一四〇	一四〇	一四〇	一四〇
大新 一四〇	一四〇	一四〇	一四〇
新新 一四〇	一四〇	一四〇	一四〇
日新 一四〇	一四〇	一四〇	一四〇
東洋 一四〇	一四〇	一四〇	一四〇
日石 一四〇	一四〇	一四〇	一四〇
日産 一四〇	一四〇	一四〇	一四〇
日電 一四〇	一四〇	一四〇	一四〇
東電 一四〇	一四〇	一四〇	一四〇
日産 一四〇	一四〇	一四〇	一四〇
日電 一四〇	一四〇	一四〇	一四〇
東電 一四〇	一四〇	一四〇	一四〇

### 期米

東	京	大
当期	中期	先期
一節 元〇	元〇	元〇
二節 〇〇	〇〇	〇〇
三節 〇〇	〇〇	〇〇
四節 〇〇	〇〇	〇〇
五節 〇〇	〇〇	〇〇
六節 〇〇	〇〇	〇〇
七節 〇〇	〇〇	〇〇
八節 〇〇	〇〇	〇〇
九節 〇〇	〇〇	〇〇
十節 〇〇	〇〇	〇〇

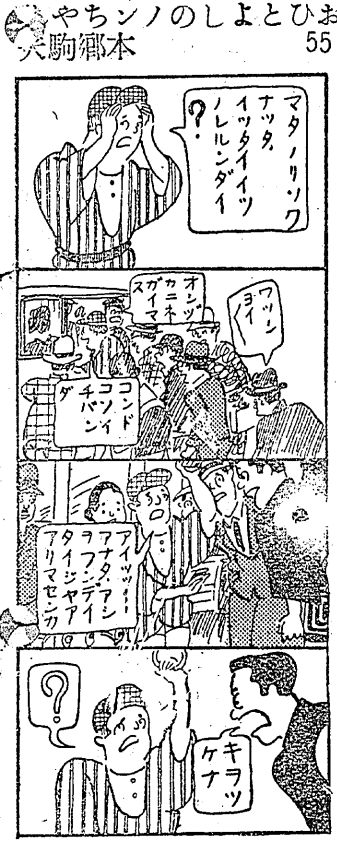
美味! 芳醇!

# 宗正らひた

山崎合名會社 電話一〇番

市原醫院 平・田町 電話一四四番

木村外科醫院 平町六丁目橋際 電話三〇九番



印刷の御用は設備完全の『常磐毎日』へ 電話六三〇

# 鮮人の兇行

## 出及庖丁を揮て

相手の肩先をグサリ

江名町字永崎築港工事飯場  
内土工朝鮮生れ銀徳守(三)は  
昨六日午後八時同僚春山  
文太郎(三)と賭博中些細の  
事から大立廻りを初め銀は  
臺所にあつた出刃庖丁を振  
つて相手の肩先に突刺し瀕  
死の重傷を負して駐在所員  
に逮捕され昨夜直ちに平署  
に押送された

# 軍部見學

定員八十名

平町在郷軍人分會、國防婦  
人會は非常時日本の國防第  
一線に立つ陸海軍の精銳を  
見學し大いに銃後の市民に  
覺醒を圖らんと東京、横須  
賀の軍都見學團を左記要項

- 一、行程 宮城 明治神宮 陸軍戸山學校 記念艦三笠 軍樂隊 海軍工廠 軍艦見學 追濱飛行隊 少年航空學校 鎌倉 長谷 七里ヶ濱 江ノ島 藤澤 横濱博覽會 東京 驛解散
- 一、費用合計十一圓五十錢

# 消防組の松林が

## 煙草の火で焼失

好間村大字北好間字平場地  
内同村消防組の所有林から  
昨六日正午頃發火松林四畝  
歩を焼き目下平署で損害取  
調中であるが原因は通行人  
の落した煙草の吸殻らしい

# 大阪から

見習工求人

平職業紹介所へ大阪府下三  
島郡高槻町の絹糸工場より

豊間電話擴張 豊間

郵便局は電話加入者の區域  
擴張中であつたが此程薄磯  
沼ノ内方面に四名の加入者  
が決定昨六日より直に着工  
した

# 武力製燐寸箱

大浦  
村消防組頭早川祐次氏は防  
火思想の普及徹底を圖る爲  
め組員各家庭にブリキ製マ  
ツチ箱入を寄贈した

# 小川農事座談

小川  
村農會は十一日午後一時か  
ら役場内に各實行組合の農  
事座談會を開くが講師は齋  
藤神谷農事試験分場長及び  
矢ヶ崎技手である

# 農會振興對策

石城  
郡農會は来る十一日午前十  
時より小川村役場に同村の  
會を開くと

# 教育會々員が

## 約二千名參集

本縣の教育會總會

第五十一回本縣教育會總會  
は來月十五、十六午後一時  
より磐城中學校講堂にて開  
催すべく決定當日は會務報  
告、總理推戴、役員選舉、  
會員演說、協議其他ある筈  
で縣下各地よりの參集會員  
約二千名に及び盛會を豫想  
されて居る因に會員には五  
割引乗車券を交付する筈

# 平裁判たより

△石城郡錦村大字江栗宇馬  
場四農飲食店小鍛治淺雄  
(一)同村三九農上遠野功  
(二)同村三九農上遠野功  
(三)の三名は去る三月十八  
日前記小鍛治方で賭博を開  
張し今七日平區より略式罰  
金各十五圓に處された

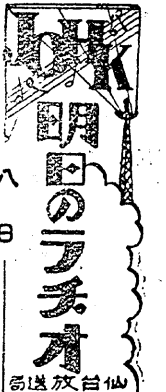
# トラック正面衝突

一方は無免許運轉發覺

五日午前八時頃小名濱町字  
橋本トラック運轉手笠間勝  
利(三)は石油罐を満載して  
錦村大倉地内縣道に差しか  
つた際道路の曲角で前方

# 道路の曲角で

より疾走して來た植田町佐  
藤自動車店方助手小澤清次  
(三)の運轉するトラックと  
正面衝突し双方車体を大破  
したが小澤は無免許運轉の



今晩は南東の風  
驟雨あり明日は  
天氣好し

# 今晩の部

後六、〇〇(子供の時間)  
お話「國防少年團」原孝吉  
◎農村青年の夕◎  
後六、二五 講演「偉人の  
青年時代」鶴見祐輔  
後七、三〇 體験談  
後八、一〇 但謡「勞作家」  
「賀豊節」外數種  
後八、三〇 歌謡曲「國  
境の町」綾乃の子守唄  
農會振興對策について協議  
會を開くと

# 明日の部

外數種東海林太郎  
後八、五〇 物語「大岡政  
談」鑓子裁判「栗島狹衣  
後九、三〇 時報 ニュー  
ス 氣象通報 番組豫告  
前六、三〇 英語講座(二  
ノ三) 南石福次郎  
前七、〇〇 朝の修養「法  
廉に依り植田署で取調中  
あると

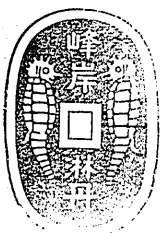
# 前科二犯の老賊

植田町徘徊中に捕る

若松市材木町生れ住所不定  
無職窃盜前科二犯五十嵐市  
太郎(六)は昨六日植田町を  
徘徊中植田署員に檢舉され  
たが同人は去月廿五日同町  
字仁井田猪狩トシさん方の  
留守宅に忍入り衣類金屬品  
等五十圓餘を窃取逃走した  
外同町附近で空巢專問に多  
數餘罪がある老賊であると  
平職業紹介所報告

# 平職業紹介所報告

- 回人を求める方
- △女中 三十才 尋卒 月
- 五圓位
- △洋服外交員 十七才 高
- 卒 仕着小遣
- △表具職 十七才 尋卒
- 仕着小遣
- △中賣人 三十才 尋卒
- 給料歩合
- 回 職を求める方
- △工夫 四十八才 無學
- △自轉車工 十六才 高卒



登 商 錄 標  
峰岸淋丹東北專賣所  
平町仲田町  
東北商行  
電話六五三

# 木村病院

電話一六四番

産科 婦人科 院長 木村寅次郎  
外科 醫學博士 内木宗八  
藥局 藥劑師 玄番彌一

平町新川町十九

病室隨意  
入院完備

一册の代金で  
御希望通りな  
五册の雜誌が  
自由に讀める  
川崎巡 回文庫  
電六三〇番  
(申込次第規則書進呈)



# 明治太平記

(禁無断複製)  
(上及上演)

(作) 寺島在史  
(監) 野口松江

第一七回

## 刺客ばやり (九)

「いよいよ出世の第一歩だぞ、畜生！うまくやつてやがらア。」  
井手はそつと赤い舌を出した。

ドアがあいた。

羽二重紋付の着流しで當代第一の政治家大久保利通卿がゆつたりは入つて来た。「はつ、閣下」

井手はからくり人形のやうに椅子を飛上り不器用に頭をさげた。

「井手か、何しに参つた」  
大久保は、頬の長ひげをかるくもてあそびながら、じろり井手の方をみた。  
「はつ、國家の一大事でございますまして」

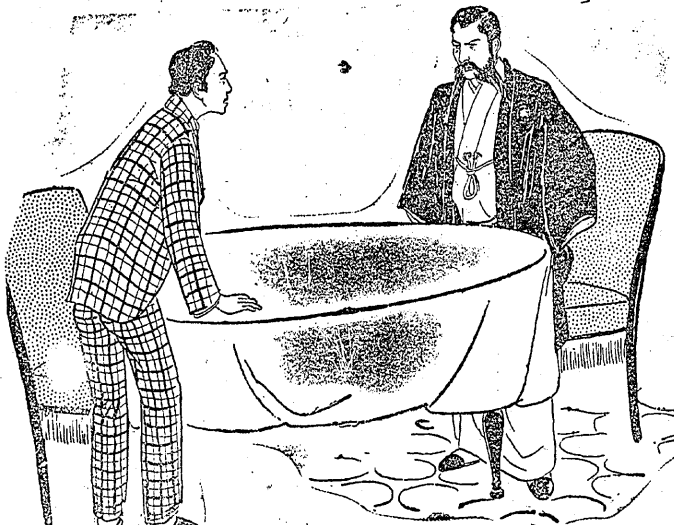
井手は感激して舌のこはばるのを覺えた。  
「具體的に述べたまへ」  
大久保は苦々しい顔をした。

「はつ、先般閣下の御指圖を受けました、例の件……」  
「はつさり、端的にいひたまへ」

「つまりその、廣澤参議閣下暗殺の件がつまりその首尾よく成功いたしましたので、御報告に参りました次第

第でございませう」

大久保はじろり井手をにらむやうにしたが、黙りこくつてをる。  
「お指圖通り、市井の盜賊を使そういたしました首尾



「おい、井手、君は寢言をいふてをるのか」

「閣下、わたくしの申上げますのは今朝來世上の騒ぎとなつてをります廣澤閣下暗殺事件でございます」

「だから、井手、君ア寢言をならべてをるのかと言ふ

「のぢや」  
「いえ、寢言どころか、廣澤閣下にはのどに三ヶ所全身に十一ヶ所の傷をうけて無慘の死をとげられました」

「うるさいな。そのことならわが輩すでに耳にしてをるわ。これから内閣へ赴いて善後處置をとらうといふのぢや。君の注進をきくまでもないわ」  
大久保の不機嫌が井手にはふにおちない。  
「で、ございますからその閣下のおさし金によりまし

なされましたので、わたくし、閣下のおふせ通り明治白浪五人男と申す盜賊の一派に命令いたし、首尾よく……」  
「黙れ！」  
「ですが……」  
「ごりや、何を奇怪なことを言ふのぢや。血迷ふたか井手」  
大久保はハタと井手をにらみつけた。  
「は、はい。決して血迷ひはいたしません。たしかに閣下のお指圖によりまして……」

六三郎は、もう立身出世どころではなく、おろ／＼聲で大久保の威嚇に恐怖した。  
「ごりや、よう／＼開け、いやしくも廟堂に立つて天下を料理するわが輩ぢや。假にも廣澤参議刺害の計劃をたつるとも君ごときたかた人身買業者に輕卒にも暗殺を依頼すると思ふか、馬鹿ものめが……」

て、わたくし市井の盗人を使そう致しまして、廣澤どのを……」

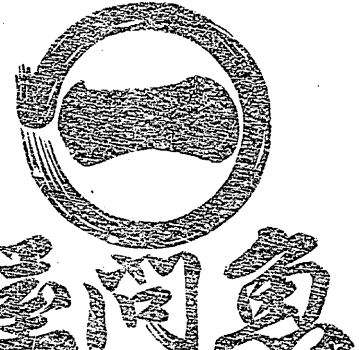
「わが輩、何を君ごときに指圖いたしたといふのか」

「は、はい、市井の盗人をそゝのかして廣澤を殺害せよと先般わたくしにお指圖

# 力ヒ焼と

## 産丹雲みそ

新發賣  
ウニ



# 魚問屋

最優 最大 日本 生命 代理 店  
榮盛 (三一二電) 目丁平

### 藤沼醫院

平町・紺屋町  
電話五〇番

### 看護婦急派

の求めに應じます  
平町南町  
平看護婦會  
電話三七〇

## 是非!

御融通には御用命下さい  
萬事便利な御相談に應じます

### 三井質店

平四・電六〇六番

### 内科

## 川井内科診療所

平南町(電話二四三)  
川井 安子

## 新車御披露!!

時代の尖端皆様の**昭和タクシー**に又々新車三五年の超モダン車拔群の**ダツチブラザーズ**が入りました。安全、確實、迅速は他の追従を許しません、匆匆しかつたお花見も過ぎ去りいよいよ遠出行樂の季節となりました、是非**昭和**の新車でお出かけ下さい、如何様の御相談にも應じます。團體には地方唯一の大型遊覽車御利用願ひます。

### 昭和タクシー

驛前  
電話三四三・三四〇番

## 体温計の検査日です

### 10日 検査新設

## お宅の体温計は?

◎確な体温計を御使用下さい  
◎毎月十日の検査日御利用下さい

度量衡 指定販賣人  
計量器  
**西村屋藥局**  
平・二電三番